

幸福な富山の旅

一、幸福な夢

2014年10月20日、富山ファンクラブの設立10周年を祝うため、富山県大連事務所が瀋陽市の遼寧大廈でレセプションを行いました。その場で抽選が行われ、特賞は富山一大連便の往復航空券でした。石井知事の抽選により、私は往復航空券を射止めました。そして、私は富山ファンクラブの会員を代表して、おもてなしと友情に溢れた富山県に行けることになりました。この機会に、かつて富山で親交を深めた皆さんにお会いしたいと思います。そこで、2015年3月24～28日の間、幸福な富山の旅に行くことになりました！

二、行程

私は1996年8月1日～10月28日、富山県で研修したことがありました(H8年度農業技術研修員)。農業の新しい技術などいろいろ勉強になりました。私は帰国して富山県で勉強した技術を応用して、遼寧省で多大な成果をあげました。今回、この富山旅行をきっかけに、私は富山県庁と野菜花き試験場などに行っただけの御礼を伝えたいです。富山県では、観光だけではなく、さらに勉強したいと思っています。

大連事務所の高山所長と劉娜さん、富山県国際・日本海政策課高野主任に旅行日程を手配していただき、私は2015年3月24日大連に到着し、25日朝8時に南方航空CZ613便に搭乗し、11時40分に富山空港に到着しました。そして、28日の14時15分に大連空港に戻ってきました。3日間の視察及び観光をする私一人のために、富山県は専用車を手配してくれ、国際交流員の鐘一鳴さんか黄敏さんが常に付き添ってくれました。また、訪問先には全て案内をしてくれる担当者が待っていてくれました。幸福な富山の旅を終えて、私はとても感動しました。富山県に行って良かったと心から思います。

県庁での表敬

富山空港に到着してすぐに、富山県の皆さんの親切さを感じました。高野主任(写真右図右①)と鐘一鳴 CIR(左①)は、わざわざ私を空港まで迎えに来てくれました。県庁では、国際・日本海政策課 武隈課長、平井係長への表敬、農業技術課 石黒課長(左②)、早川班長(右②)への表敬、そして農業技術研修員時代に指導いただいた松本先生にもお会いできました。松本先生は、私が当時腰が痛く、胃の調子が悪かったことをまだ覚えていてくださり、私に薬(左写真)と先生の著作をくださいました。さらに、研修時に私が作成したレポートがま

だ保存されており、大変驚きました。そして、プレゼントとしてかつての自分のレポートもいただきました。

生産考察

- 1、砺波では、私がかつて研修した野菜花き試験場所を再訪することができました。現在、野菜花き試験場は、富山県農林水産総合技術センター園芸研究所に名称変更していました。多くの懐かしい風景を見ることができ、非常に感慨深く思いました。森山所長(左写真左②)と北田副所長(右③)が、研究所の発展の現状を紹介してくれました。壁には、様々な賞状が掲げられており、多くの成果をあげていることがわかりました。所長から色々な技術資料をいただきました。また、野菜課の西畑課長と研修時にお世話になった岡田研修員(右②)が研究所内を案内してくれました。特に、野菜を土なしで育てる方法や、チューリップの栽培過程を学ぶことができ、有意義でした。
- 2、砺波農林振興センターの宮元主任(右写真)にもお会いできました。お互い、かつての友情を懐かしく感じました。宮元主任は、私を連れて、砺波農産物直売場とか、玉ねぎの生産場所とか、玉ねぎの加工包装工場などを案内してくれました。
- 3、富山農林水産部農業技術課西村副主幹(右上図左①)、松本先生(右②)と黄敏CIR(右①)が随行してくださり、全農富山野菜センターで、じゃがいも、ニンジンを選別して包装する機械化生産ラインを視察しました。
- 4、41年という長い歴史を有する八ヶ山施設園芸団地でトマトの大棚生産を視察しました。この場所も研修当時に訪れた場所です。大きな栄養鉢で苗を育て、抗ウイルストマトを砧木として苗を育て、蜂で受粉するなど多様な技術を用いていることが特色だと思いました。
- 5、多くの農産品の市場を視察したところ、野菜の品質を重視して、写真を包装に掲載していることに気付きました。また、農産品は全部コードで管理されており、追跡が可能です。

おいしい食べ物、観光、リラックス、ショッピング

多くのレストランで新鮮なお寿司や、カレーセット、しゃぶしゃぶ、ホタルイカ、お茶漬、鉄板ステーキなどの美味しい物(下記写真)を食べました。富山城址公園では、散歩をし、松川沿いの桜鑑賞も楽しむことができました。市役所の展望塔で夜景を見て、富山駅前でも3D映画を見ました。スーパーにも4か所行き、お土産や、化粧品、洋服を買いました。宿泊したホテルでは、大浴場の温泉やサウナでリラックスしました。また、ホテルでは、夜食として美味しいラーメンを無料でいただけました！

三、感想

- 1、富山県の方は、仕事に対して大変真面目です。今回の視察の内容は豊富であっただけではなく、視察前に担当の人と日程が決められており、視察先の説明文書をいただけたうえ、現場での説明も大変詳しいものでした。また、18年前に、私が富山県で研修した時のレポートが未だに全部保存されていることにも驚きました。CIRの鐘一鳴さんと黄敏さんはいつでも親切に翻訳をしてくれ、私と一緒に富山県のあちらこちらを視察してくれました。また、毎日ホテルまで私を送ってくれたので、安心してホテルに戻れました。
- 2、富山県の方は友好的で親切です。今回の旅行は、私たった一人だったのに、移動時の車を手配してくださり、翻訳者も常に同行してくださいました。視察先では、最先端の技術と設備を全て教えてくれます。私の研修先では、当時の写真を保存してくれていました。私が研修時にお世話になった松本先生は、当時私は腰が痛く、胃の調子が悪かったことをまだ覚えていてくださり、わざわざ薬を持ってきてくださいました。富山の街中で、助けが必要だった時は、富山の方はいつでも親切に助けてくれました。
- 3、富山県では、環境保護が重視されています。路面電車が大切な交通手段です。北陸新幹線は当地の重要なプロジェクトですから、様々なお店で新幹線関連の商品が販売されていました。歩道では、カードでレンタルできる自転車があり、車道では様々な車が見られました。特に軽自動車が多いです（中国には軽自動車はありません）。高級車はやや少ない印象です。そのほか、タクシー用の車のレベルが高いと感じました。トラックは町のなかでも運転できますが、煙を出す車は見られませんでした。富山県を歩いていても、道路とビルの修理箇所は少ないです。富山の夜景は省エネのために電力がコントロールされていました。ホテルの中は、木材の設備が多かったです。
- 4、環境は清潔で、水が美しくて美味しいことが羨ましいです。空気は乾燥しておらず、程よく湿気があり、青空には白い雲が漂っていました。PM2.5は問題になっておらず、本当に羨ましく思いました。富山の水道水は甘い味がしました。地面には、クズや埃は全然見えません。道路にはゴミはどこにもありませんでした。街中の通りでも、公園と同じように美しいです。
- 5、美味しい食べ物が多くありますが、価格は高くありません。おかげで、日本料理を本当に楽しめました。特に、日本では中国のホテルで食べるような高級料理が80～150人民元（1,600～3,000円）で食べることができます。宿泊したホテルの朝食は60元（1,200円）でした。富山のホテルは一泊300元（6,000円）でした。富山県から大連までの往復チケットは少なくとも3,500元（70,000円）かかります。みんなで一緒に行ったらもっと安くなります！

ですから、皆さん直ちに富山に行ってください！

- 6、持って帰った資料は、我々の農業生産に非常に役立ちそうです。資料をゆっくりと勉強して、自分の仕事に応用したいと思っています。以後、たゆまず遼寧省の農業技術の改善と管理モデルの発展を推進したいと思います。
- 7、富山の皆さまとこれからずっと連絡をとりたいです。今回は、かつての友人に会い、新たな友人もできました。現代の連絡ツール（インターネット、メール、微信などの手段）を用いれば、お互いに長期にわたって交流を続け、コミュニケーションをとることができると思います。困難もあるかと思いますが、富山県と遼寧省の交流を更に深めていきましょう。

富山県がますます発展することを祈念しています！遼寧省で富山の友達に再会できることを楽しみにしています！

2015年4月3日

遼寧省農業技術推广站 趙義平